■ 平成２６年５月１３日～１４日　観光振興対策特別委員会県外調査（島根県）

１　５月１３日　八重垣神社（島根県松江市佐草町227）

【調査目的】

古代出雲と観光について

【調査概要】

・主祭神は、素戔嗚尊(ｽｻﾉｵﾉﾐｺﾄ)、櫛稲田姫命(ｸｼｲﾅﾀﾞﾋﾒﾉﾐｺﾄ)。縁結びの神様として知られる。
・社名の由来は、素戔嗚尊がヤマタノオロチから稲田姫命を助け、佐久佐女(さくさめ)の森に姫を隠し、廻りを八つの垣根で囲んだことを詠んだ歌にちなむといわれている。
・森には、姫がヤマタノオロチから身を隠す間、鏡の代わりに姿を映した伝えられる「鏡の池」があり、良縁占いを行う参拝客で賑わっている。
・本殿板壁画は、年代測定の結果、１３世紀中頃(鎌倉時代)のものと判明し、国の重要文化財の指定を受けている。

２　５月１３日　島根県議会（島根県松江市殿町1）

【調査目的】

島根県の観光振興について

【調査概要】

●「神々の国しまね」プロジェクトについて
・古事記編纂1300年、出雲大社「平成の大遷宮」を契機に県内各地の歴史・文化、自然等の観光資源を活用して、県・市町村・民間団体等が一体となって、島根の存在感を情報発信し、観光誘客の一層の拡大を図ることを目的とする。
・事業コンセプトは、幅広い県民の参加を得た事業展開、事業終了後も地元で継続できる仕組みづくり、神話等にゆかりのある奈良県・三重県・鳥取県等との連携
・プロジェクトの基本構想(５本の柱)は、①ふるさと再発見、②おもてなし、③イベント、④情報発信、⑤旅行商品づくり
・事業展開は、平成22年度から平成25年年度の４カ年。
・成果として、島根県への関心、ブランド力が高まり、県民の意識も高くなった。観光入込客数は、県全体で1,100万人増（対平成21年度比)。

●「ご縁の国しまね」の取組について
・全国から八百万の神様が次の年の縁結びの話し合いに集まる「ご縁の国」であることを認知してもらうことで、島根県の認知度を向上させ、継続的な誘客を図ることを目的とする。
・メインターゲットは、首都圏在住の20～40代女性。キャッチコピーは、「運は一瞬、縁は一生。ご縁の国しまね」。ＰＲ大使は、ＤＡＩＧＯ氏。
・事業展開は、平成25年度から開始。プレス発表会、特設ホームページ開設、首都圏での交通広告、イベント開催、県内プロモーション等を実施。今後も継続する予定。

●島根県の観光振興について
・平成20年3月に「しまね観光立県条例」が議員提案により制定され、観光を主要な産業として位置付ける。
・条例制定後、観光関係予算は拡大し、組織が強化された。
・神々の国しまねプロジェクトの成果を継承し、更なる発展を図るとともに、課題や市場の動きを踏まえた、中期的・総合的な観光施策を展開
・今後の方向性は、①情報発信・イメージ戦略を展開し、島根県の更なる認知度向上を図る、②官民が連携した地域主体の観光地づくりの推進、③島年県の観光を担う人材の育成・基盤の強化、④伸びしろのある市場の開拓、もてなしによる地域力の向上等

【質疑応答】
Ｑ：PR大使にDAIGOさんを起用されているが、今までに芸能人以外も含め県として観光大使やふるさと大使などを起用する制度に取り組んでいるか。
Ａ：島根県ではDAIGOさん以前にＰＲ大使や観光大使はお願いしていない。H24神話博しまね開催の際に、プロジェクトのメッセージソングをつくっていただいた谷村新司さんに神話博応援する大使として期間限定でお願いしたことはある。それ以外には、「遣島使」という、島根県ゆかりの方、著名人の方に委嘱をして、自身で可能な範囲でＰＲしてもらう制度があり、現在約１，０００名登録されている。

Ｑ：県が、市町村、観光協会、商工会等と連携して取り組まれる中で、苦労された点はあるか。
Ａ：各市町村とも予算が厳しい、人員が少ない状況。現状では、今まで以上の取組を行うのはなかなか厳しいという声があった。そのような中で、県としては、予算的になるべく市町村に負担をかけないようにした。プロジェクトについては、２５億円のほとんどが県費負担。市町村は、県の事業を使ってできる範囲で取り組んでもらう。市町村によって温度差があり、意識改革も必要である。一定の平均以上のものを確保しながら、伸びるところは伸ばしていくように取り組んできた。

Ｑ：事業を行うにあたって経済効果などを調べる実態調査について、業者に委託されたのか、または、県で行ったのか。
Ａ：経済効果、効果測定については、実行委員会(県)で直営で行った。県では、毎年、観光動態調査を取りまとめており、ノウハウをもっている。経済効果の出し方についても、従来からの方法がある。

Ｑ：宿泊施設の状況はどうか。
Ａ：ホテル、旅館は、県内に約５００件ある。全国平均からすると、旅館の率が高く、ホテルが少ない。旅館も団体旅行型から個人旅行型にシフトしている。
都市型のホテルは、ホテル一畑のみ。その他日航など大手ホテルはない。外国人ＶＩＰが宿泊できるホテルがほしいという声は、経済業界から聞いている。

３　５月１４日　島根県立古代出雲歴史博物館（島根県出雲市大社町杵築東99-4）

【調査目的】
古事記と出雲神話に係る歴史展示について

【施設概要】
●施設設置年：平成19年
●設置目的：島根の歴史・文化の調査・研究と成果の発信、歴史と文化を活かした人づくり、地域づくりへの貢献。
●開館：9:00～18:00（休館日：毎月第３火曜日）
●施設管理：指定管理制度を導入
●展示概要：①テーマ別展示室（出雲大社と神々の国のまつり、青銅器と金色の大刀、出雲国風土記の世界）②総合展示室（島根の人々の生活と交流）③神話回廊（神話シアター・神話展示）

【調査概要】
・博物館開設の発端は、荒神谷遺跡から大量の青銅器が出土したことによる。平成元年に島根古代文化活用委員会が設置され、歴史系博物館の設置について提言された。
・事業費は、整備関係総事業費120億円、管理運営費平成26年度予算359百万円（うち指定管理料269百万円）。
・入館者数は、平年ベースで20万人。平成24年度は神々の国しまねプロジェクト、平成25年度は出雲大社大遷宮の影響により、入館者数が倍増した。
・館は教育委員会の施設であることから、学校教育との連携・交流に取り組んでいる。
・開かれた博物館づくりを目指し、ボランティア活動制度を採り入れている。ボランティアは三班体制をとり、展示資料の説明やその通訳、普及交流事業の補助、環境美化など館の運営をサポートしている。
・出雲大社とともに出雲地域の中核となり、観光部門と連携しながら、県内外への情報発信を強化している。

【質疑応答】
Ｑ：指定管理者以外に県職員も20数名おり県職員の人件費も合わせると相当な経費になるが、厳しい財政の中、将来も含め、どのように考えているのか。
Ａ：展示品を自己所有する民間とは異なり、県立では展示会を開催するのに、展示品を50～60点借りる必要があり、貸し方の要望を考慮するため、展示に関する制限が多くなり、より人件費がかかるという実態がある。しかし、公設である以上、より多く利益をあげて県民に還元していくべきとは考えており、努力していきたい。

Ｑ：誘客について、特段に対策を考えているか。
Ａ：団体については９割弱が県外からの来館。近畿日本ツーリストに県職員を派遣しており、いろいろなところに営業活動を行っている。また、道の駅等にチラシ、ポスターを置き、ＰＲ活動を行っている。

４　５月１４日　出雲大社（島根県出雲市大社町杵築東195）

【調査目的】
古代出雲と遷宮について

【調査概要】
・主祭神は、大國主大神(ｵｵｸﾆﾇｼﾉｵｵｶﾐ)。縁結びの神様として広く知られる。
・本殿は、大社造りと呼ばれ、1744年の造営以来、３度の修造（遷宮）が行われ、平成20年から60年ぶり「平成の大遷宮」がすすめられており、平成28年まで継続される。
・古事記では、大國主大神が、高天原に国譲りをする条件として、高天原まで届くような高く太い柱を持つ宮殿を建てて欲しいと示し、大國主大神を祀った宮殿が出雲大社の起源とされている。
・平成25年5月に「平成の大遷宮」奉祝イベントが開催され、期間中約752,000人の参拝客が訪れた。

以上のことから、観光客誘致に向けて、古事記、日本書紀にゆかりの深い地として古事記や出雲神話等を活用した観光情報の発信に積極的に取組まれている。